

西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年10月31日現在

今月の重点活動

■ トマト 試作品種の生育状況を確認～海津トマト部会～

海津トマト部会では、独立ポット耕栽培による新規就農者が増加しており、ポット耕栽培に適した品種として「りんか409」が導入されている。一方、既存の土耕生産者では2品種が栽培され、生産者68名(22ha)で3品種が栽培されている状況である。土耕栽培中心であった産地に、養液栽培の占める割合が増える中、栽培技術面において品種の検討が必要な時期となっている。

このような背景を踏まえ、海津トマト部会では「TTM120」を有望品種として、平成30年産より技術係会が中心となって試作を行っている。

9月26日、技術係会と農業普及課は、定植1ヵ月程度経過した時点での生育状況を確認するため土耕及びポット耕の5カ所を巡回し、意見交換をした。現状では、「TTM120」は、草丈がやや伸びるものの、着果や果形及び生育状況は慣行品種と比較して遜色ないとの認識となった。今後もポイントとなる時期の生育状況を技術係会で確認するとともに、農協とも連携して、定期的に食味調査も実施する予定である。



【技術係会による現地巡回】

多様な担い手づくり

■ 定年帰農 帰農塾の開催を支援～海津市、安八町～

定年帰農など新たな就農者の発掘を目的とした「JAにしみの海津地域やさい塾」が9月26日に開催された。本年は2年目の取り組みとして春菊、ナバナを取り上げ、栽培を実際に体験できる講座としている。

第1回目の講座には6名の参加があり、農業普及課から栽培の概要とポイントについて説明したあと、定植・播種の実習を行った。講座終了後、実際に自宅でも栽培できるよう参加者へ苗が配布された。第2回は11月1日に、施肥、摘心、出荷調整等の栽培管理について講習することとしている。

近年、海津春菊部会、ナバナ部会では、会員が減少しており、やさい塾を継続することで部会の維持・発展につながることを期待している。

このほか、安八地域では第2回帰農塾が開催され、牧園芸組合ほうれんそう部会の視察などを行った。

売れるブランドづくり

■ ブロッコリー 10月末より収穫開始

8月下旬より定植の始まったブロッコリーは、10月上旬に定植が終了した。8月下旬から定植した早生品種については順調に花蕾が発生し、11月上旬より出荷が始まる予定である。10月の天候不良・台風の影響がどの程度となるかは不明であるが、年内は早生品種を中心に出荷が行われ、年明けより晩生品種が出荷される計画である。農業普及課では昨年引き続き、農家の協力を得て、早生・晩生品種の品種試験、被覆資材の効果確認を行う。今後、生育調査等並びに結果の取りまとめをし、研修会等で農家への周知を図っていく。



【品種試験ほ場】

■いちご 研修会と花芽検鏡を実施

海津いちご部会(9月28日)、養老町いちご連絡協議会(10月6日)、平田町苺園芸組合(10月16日)で栽培研修会が行われた。農業普及課から、マルチ被覆・ビニール被覆等厳寒期に向けた準備、病害虫の発生状況と防除対策、台風対策について説明を行った。

また、10月6日～18日にかけて腋果房の花芽検鏡を行った。サンプル数が少ないが平均の花芽分化日は、濃姫で10月12日、美濃娘は10月13日であった。今年は10月に入ってから低温により、課題である1、2番間の開きは少なく、1、2番間の葉数は2～3枚と逆に葉数確保ができておらず、草勢の低下が懸念される状況となっている。



【花芽検鏡～根気がいる作業～】

■かき 各地で活発な活動

南濃柿部会役員会が10月10日に開催され、柿の出荷予定について協議、検討した。その結果、「松本早生」は10月23日、「富有」は11月1日、「陽豊」は11月2日の出荷開始予定となった。農業普及課からは、柿の栽培、病害虫防除に関する情報提供を行った。

一方、有望品種である「陽豊」の栽培を推進しており、南濃で2名(合計32a)が新たに栽培を計画しており、養老町の陽豊園から樹を選抜し穂木の採取を行い、業者に苗の育成を依頼する予定である。

また、10月19日に養老柿振興会、南濃柿部会の出荷目揃会が開催され、活動支援した。出荷規格等についてJA担当者から情報提供があり、意識統一がなされた。農業普及課からは、生育状況や病害虫に関する情報を提供し支援した。

■水稲種子生産 (農)大垣南採種ほの糊熟期審査

9月22日に(農)大垣南のハツシモ岐阜SL一般種子生産ほ場にて、糊熟期審査を行った。前回の出穂期審査と同様に農業普及課等、県の審査員や米麦改良協会・全農岐阜の審査補助員が審査に立ち会い、約10haの採種ほ場すべてを確認した。

雑草や病害虫の発生はほとんど見られず、状態としては良好であり、前回に引き続き全筆合格とした。

農業普及課は、種子生産の責任を噛みしめ、今後は適期収穫の指導や生産物審査を行う。



【審査の状況】

住みよい農村づくり

■組織活動の強化 養老町農業生産産組織協議会活動支援

養老町農業生産組織協議会は、町内の生産団の代表者で構成され、毎年講演会や先進地視察研修等の活動を行っている。9月27日に総会と講演会が開催され、講演会では農業普及課の職員が講師となり、GAPの基本について説明を行った。トマトや水稲の生産者から質問が出て、GAPに対する関心の高さが伺えた。



【GAPについて説明する普及指導員】